2026 年 10 月
薬剤部　薬品情報管理室

周術期における抗パーキンソン病薬の服用指示を確認した例

プレアボイドとは薬学的ケアから患者の不利益（副作用、相互作用、治療効果不十分など）を回避あるいは軽減した事例を意味します。今回は、入院時の持参薬確認を契機に、手術日当日の抗パーキンソン病薬の服用指示を確認することで、安全な薬物療法に貢献できたプレアボイドを紹介いたします。

患者背景

▸原疾患に対する手術目的で入院された患者

【持参薬（一部抜粋）】
Rp.　ドパコール配合錠 L100（レボドパ・カルビドパ水和物）
　　アムロジピン OD 錠 5mg



A さん

持参薬確認時



麻酔科医師

パーキンソン病に対してドパコール配合錠 L100 を服用している。
麻酔科からの手術日当日の内服指示はアムロジピンのみ服用で、ドパコール配合錠 L100 については指示が確認できない。
ガイドラインでは、手術前には可能な限り抗パーキンソン病薬を内服継続し、症状増悪や合併症を予防することが推奨されている[1)]。
手術日当日の服用について確認してみよう。



薬剤師

手術予定の A さんですが、パーキンソン病に対してドパコール配合錠 L100 を服用されています。手術日当日の内服指示はアムロジピンのみとなっていますが、ドパコール配合錠 L100 は当日も服用されますか？

確認ありがとうございます。
手術日当日もドパコール配合錠 L100 を服用するようにしましょう。

ありがとうございます。指示の追加もお願いします。

その後、手術日当日のドパコール配合錠 L100 の服用指示が追加され、術中・術後はパーキンソン病症状の悪化なく経過した。
周術期において抗パーキンソン病薬の服用指示を確認することで、パーキンソン病症状の増悪や合併症の予防に寄与できた。

1）パーキンソン病診療ガイドライン 2018